

平成30年(2018年)3月1日号 (No.185)

## 「 他者の視点に立つ 」

伊丹市立総合教育センター  
所長 後藤 猛虎

いよいよ年度末となりました。今年度も総合教育センター事業にご協力、ご参加をいただき厚くお礼申し上げます。1月末現在、平成29年度8,197人（平成28年度末8,840人）の研修参加がありました。今後も教職員の資質向上をめざし魅力ある研修を企画してまいります。



『論語』の中にとっても好きな言葉があります。それは次のような言葉です。

子貢問いて曰く、「一言にして、以て終身之を行ふべき者有りや」  
子曰く、「其れ恕か。己の欲ざる所、人に施すこと勿れ」

訳すと

弟子の子貢が孔子に尋ねた「一言で、生涯貫き通すべき言葉はありますか。」と、孔子がおっしゃった「それは恕（思いやりの心）であろう。自分が人からしてほしくないことは、他人にもしてはならない。」

「自分がしてほしくないことは、他人にもしてはならない」、規範意識やいじめのない学校、学級をつくろうと思えば、この言葉は目標となる言葉です。また、すでにこの言葉を子どもたちに呼びかけて、いじめに取り組んでいる学校も多くあります。しかし、なかなかこの言葉が子どもたちの心に響かないようです。それは、他人に対する、きちんとした意識や感覚が育っていないからかもしれません。例えば、他人の存在を大切なものと感じていない。様々な他人のおかげで生きていることがわからない。自分の世界に没入したら他人の存在は気にならないなどです。そのため、自分のいやなことは、他人もいやだという感覚が弱いのかもかもしれません。

元国立教育施策研究所 滝 充 総括研究官は、「そもそも人が他者や社会に好意的な感情を抱くのは、自分が相手から『受け入れられている。認められている』という感覚を抱く経験から始まる。他者からの働きかけや他者との交流の自覚が基盤となり、他者と関わり合いたいという思いが生まれる。ところが、今の子どもたちは、そのような他者からのまなざしや行為に触れても、何も感じないことが多い」と述べています。他者からされたことに何も感じない子は、他者への働きかけに意味を見いだせないこととなります。それは、人の気持ちを理解しにくいということになります。

大切なことは、「他者の視点に立って、他者の気持ちや考えを想像し共感する力」を育てることです。そのためには、以前にも話しましたが、幼児期から誰かに何かをしてもらって、うれしかったという体験をすることであり、また、誰かのために何かをして、感謝や喜ばれる体験をすることでしょう。見渡せば体験は身近なところにあります。学校、家庭、地域でそんな体験をいっぱいさせてほしいものです。

参考資料：論文 規範意識の形成と教師の指導力

元国立教育施策研究所 滝 充 総括研究官著

# 1. 教材の価値をはっきりさせ、この1時間で身につけさせたい力を明らかにする。

- 説明文の学習では、内容理解に終始するのではなく、書き方の工夫など、「論理」を理解することをめあてにする。

# 3. 具体的な指示を心がけ、活動の意味を理解させてから活動させる。

- 「〇〇について話し合いましょう」ではなく、「どの資料から〇〇がわかるか話し合いましょう」などと指示をする。

# 4. ふり返りを丁寧にいき、この1時間で何ができるようになったかを実感できるようにする。

- 「ふり返り=感想」ではない。ふり返りでは、めあてに対して、この1時間でわかったことやできるようになったことについて書かせるようする。

# 1. 子どもたちの話し合い活動を組織し、理解を学級全体に広げるようにする。

- 理解の早い子どもの意見を他の子どもが言い換えたり再構築したりする。

# 2. 学んだことを自分の言葉で整理させる。

- ふり返りをしっかりとすることが大切。

# 3. 意見交流を促すワークシートやホワイトボードの工夫をする。

- ノートやワークシートに話し合った内容や友だちの意見を書き入れるスペースをつくり、他の子どもや教師の説明を聞いて、「なるほど」と思ったことなどを赤鉛筆で書き加えさせる。

# 1. ICT を効果的に活用する。

- 作業の手順をあらかじめ撮影しておき、動画で見せる。
- 各自がノートに書いたものを拡大表示する。
- 運動の様子などを撮影しておき、自分の動きをふり返らせる。

# 2. めあて（本時のゴール）を示し、子どもがこの1時間で「何ができるようになるべきか」が分かりやすいようにする。

- 授業の最後にこの1時間でめあてを達成できたかどうか、自分で判断することができるようめあてにすることが大切。

# 2. 写真・動画・挿絵・図表・動作化・短冊・ミニホワイトボードなどを使う。

- イメージや各班の考え方などを「見える化」する。

## 視覚化

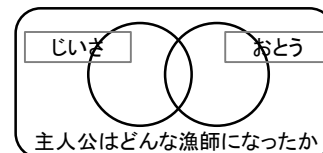
視覚的な手がかりを効果的に活用し「見える化」を図る

# 3. シンキングツールを使って、情報の関係性を視覚化する。

# 授業のユニバーサルデザイン

特別な支援が必要な子も含めて、全員の子が楽しく学び合い『わかる・できる』ことを目指す授業デザイン

ベン図



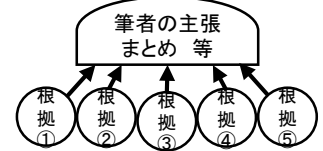
共通点と相違点を考えていく場面で考えていく場面で使う。

マトリックス表

町	花	音	食べ物	
				戦争中
				十年後

格子状になった図表。複数の観点を関連させて情報を整理する場面で使う。

クラゲチャート



文章の構造を整理する場面で使う。「足」の数やつながり方は必要に応じて変化させる。

## 共有化

理解を全体に「つなぐ」「広げる」

# 4. 課題を与えるとき、相手意識を持たせる工夫をする。

- 「〇〇について友だちに根拠をもとにわかりやすく説明しよう」と指示をするなど、相手をイメージさせる。

# 5. 黒板に書く意見を意図的に選択する。

- まず1つの班の意見を大型ディスプレイに映すなどして、注目させ、次にその班の代表者に発表させる。
- そして、考えを深めさせたい部分に教師が赤線を引き、そのことについて全体に問い返す。

# 総合教育センター事業報告

今年度、総合教育センターでは市内教育の「シンクタンク」として様々な取組を行いました。来年度も自身の資質の向上に向け、ぜひご活用ください。

(それぞれの事業の数字は平成30年1月末現在のものです)

## 研修

8,197人研修参加

### 「こんなことをしています」

今年度総合教育センターでは、児童生徒の「学力および学習意欲の向上」、教員の「指導力向上」等のため、「授業力向上講座」「トップリーダー研修」「ミドルリーダー養成研修」「初任者研修」「小学校外国語活動実践講座」を充実させました。

### 「来年度に向けて」

道徳教育や英語教育、新学習指導要領に関すること等、国の動向を踏まえた研修をグループ討議やワーク等の参加型により実施し、教員の指導力向上を支援していきます。積極的にご参加ください。

## 授業力向上(カリキュラム)支援センター

自主研修1,804人

### 「こんなことをしています」

- ・2名のコンサルタントが相談等に対応し、教員のサポートをしています。
- ・夜間に、「カリセンミニ講座」「臨時講師等対象セミナー」「トワイライト研修」を実施しています。
- ・教育図書・雑誌・DVD等を貸し出しています。

### 「来年度に向けて」

コンサルタントによるきめ細やかなサポートと充実した講座の実施。豊富なコンテンツも用意しています。是非、カリセンをご活用いただき、さらなるスキルアップにつなげてください。

## 教育相談

相談件数1,594件

### 「こんなことをしています」

- ・幼児児童生徒の心身の健全な育成を支援するために、保護者の申し込みによる「こころの相談」「特別支援教育相談」「ことばの支援教室」を行っています。
- ・学校園からの依頼で「医療相談」「医療発達相談」「特別支援教育巡回相談」を実施しています。
- ・学校園との情報交換や教職員自身のメンタルヘルスに関する相談を実施しています。

### 「来年度に向けて」

学校園と連携しながら様々な問題の解決を図っていきます。ぜひ有効にご活用ください。

## 不登校児童生徒の学校復帰支援

適応教室37人在籍

### 「こんなことをしています」

- ・適応教室「やまびこ館」では、集団生活への適応を、第2適応教室「学習支援室」で学力と学習意欲の向上を目指し運営しています。
- ・メンタルフレンドによる家庭訪問を実施し、児童生徒の自主性や社会性を育て、学校復帰を目指します。
- ・「不登校を考える親のつどい」「保護者のための不登校講座」を年2回開催しています。

### 「来年度に向けて」

学校との連携の下、不登校児童生徒の学校復帰に向けて取り組んでいきます。

## 教育の情報化

ICT活用授業時間数 1クラスあたり1か月の平均27.3時間

### 「こんなことをしています」

- ・情報教育研修会や、学校園別コンピュータ研修会、情報モラル・情報セキュリティ研修(eラーニング)を実施しています。
- ・当センターHP「家庭学習のへや」において、「みんなの学習クラブタブレット」を運用し、小学校(国・算・社・理)と中学校(国・社・数・理・英)用プリントを配信しています。
- ・学校園版情報セキュリティポリシーに基づき、資産管理システム等を運用し、ICT機器のセキュリティ対策を行っています。



情報教育研修会

### 「来年度に向けて」

ICTの整備とICT活用に関する研修の充実を図ります。また、2020年度から小学校で必修化されるプログラミング教育に向けて、調査・研究事業を進めていきます。